

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

## 2016年3月

### 大齋節・復活節

## 祝ご復活

### ～十字架の死からの復活～

最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。(Iコリント15:3-5)

司祭 ミカエル 小南 晃

今月、大齋節から聖週、そして復活日を迎えます。冒頭の聖句は、「最も大切なこと」という言葉で始まりますが、キリスト教信仰にとって、最も大切なこととは、「復活信仰」であります。使徒信経においても、その最後に唱えられるのは「体のよみがえり、永遠の命を信じます」という信仰告白です。

しかし死んだ後の魂や世界の存在を信じる思いはキリスト教以外にも見られるものです。

まずイエスの時代のユダヤにおいて、ファリサイ派の人々は復活を信じていました。

またギリシア人は靈魂の不滅を信じ、また日本でもご先祖様を祀り、お盆の時などに迎え火、送り火をする習慣など、死んでしまうとそれですべて終わりとする考えからは生まれません。

#### 復活への確信に基づく生活

それではキリスト教の復活信仰の特徴とは何なのでしょう。

復活についてイエスとマルタと言う婦人の中で交わされた問答に次のようなものがあります。

「イエスが、『あなたの兄弟は復活する』と言われると、マルタ

は、『終わりの日の復活の時に復活することは存じております』と言った。イエスは言われた。『わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。』(ヨハネ11:23-24)」

マルタは復活について「存じております」と答えました。しかしイエスはそれに対して「わたしを信じる者は、死んでも生きる。」とまで言われました。マルタもイエスに「はい」とは答えました。しかしその後、そこまでの復活信仰には立ち得ていないことを露呈してしまうことになります。

キリスト教の復活信仰はいつか遠い未来の淡い憧れとしての復活ではなく、永遠の命への確信に基づく新たな生き方なのです。そしてそれは弟子たちが復活の主イエスに確かに会うことによって与えられたのでした。

#### 十字架の死からの復活

さらにその復活はイエスの十字架の死からの復活だということ。それは罪無くして死に定

められる、肉体的にも精神的にも残酷極まりない死であり、それは神からさえも見捨てられかのような絶望を伴うものでした。神の子イエス・キリストはその死を極みまで味わい抜かれたのです。

#### 絶望に終わらない希望

この世にはどうしてこんなに惨いことが起り得るのか、何故、神はこのような非道を見過ごしにされるのかと嘆きを感じるものが数々起ります。戦争、テロ、虐殺、そして最近ことのほか多く感じる幼児の虐待死。小さな体がどれほどの苦痛を受け、どれほどの恐怖を覚えたことかと胸が潰れる思いがします。きっとその幼子たちは天国に運ばれたことでしょう。しかしこの世で受けた苦しみと恐怖への叫びは誰かが受けとめ、聞き届けて下さるのでしょうか。

十字架上のイエス・キリストこそがこれらの叫びを聞かれるのです。また人間が無意味とも思える苦しみや死を受ける時には、それは主イエス・キリストの十字架の死に与かって行くことでもあるのです。

そして主イエス・キリストの十字架はそのような残酷、苦悩を生み出す人間の罪を贖うための死でした。

絶望的な死からの復活と言う、決して絶望に終わらない希望こそがキリスト教の復活なのです。

この十字架と復活を覚える時にあたり、今、様々な苦しみの中にいる人を祈りの内に覚えつつ、主イエス・キリストのもたらされた復活の恵みと希望を共に喜び感謝しましょう、

ハレルヤ!

#### 定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式  
" 9時15分 教会学校  
" 10時30分 聖餐式・説教  
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会  
土 午前10時30分 教会掃除  
(ご奉仕をお願いします)